

課題研究ループリックの作成

課題研究で伸ばしたい力について令和2年度末に教員アンケートを実施し、本校では「課題発見力」の身長が最も求められる課題であることを明確化した。課題を発見するために、どのような力を体系的に身に付けることが必要であるかを整理し、3年間でそれらの力を段階的に身に付ける目標設定を行なった。

(1) 課題研究を通して伸ばしたい力の整理 (21ページ参照)

- ・令和2年度末、教員対象の「課題研究で伸ばしたい力」アンケートを実施。
- ・アンケート結果をもとに、3年間で積み上げていく形で伸ばしたい力を整理。

最終目標：『未来をひらく「課題発見力」の獲得』

1学年：「分析力」、「計画力」、「プレゼン力」を育てる力とし、「好奇心」、「ICT(情報活用能力等)」、「協働力・コミュニケーション力」を柱として実施している。

- ・4月職員会議で提示。

(2) 評価ループリックの作成

① SSHの評価を目的の中心とするが、生徒に還元できるような評価を目標とした。具体的には、生徒が自分でどのように変容したのか、自分の強みは何か等を、数値を用いて客観的に捉えられることを目標とした。

② 新学習指導要領「総合的な探究の時間」における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの評価の観点に対応し、SSH満了後にもスムーズな移行が可能にする。

③ 評価内容(質問項目)については、1学年で主に身に付けさせたい「分析力」「計画力」「プレゼン力」に関する項目を中心とした。さらに、3年間の課題研究の根幹である「好奇心」や「協働力・コミュニケーション力」、「ICT(情報活用力)」の3領域について質問した。

④ 実習の担当が担任・副担、課題研究担当者と異なることがあるため、評価担当者を明記し、適切なタイミングで担当者が評価を実施できるようにした。



- ・前期の評価点は平均71.4点となり、他教科の評価点に近い(極端に高かったり、低かったりしない)得点となつたことに加え、各項目で教員評価と生徒による自己評価が相関関係を示したことから妥当性のある評価点の算出であると考える。同時に、これからその妥当性を多方面から審査し、今回のループリックをベースに改良を加えていく必要がある。

- ・評価を生徒に還元し、取組の改善につなげるための手立て(成績の開示方法、アドバイス等)を発展させていくことが可能である。